

ひろしま住まいづくりコンクール 2023 広島県知事賞

# 月灯りの庭いえ [福山市]

[建築主] 非公表

[設計者] 森田 健吾さん [そらや Landscape / 有限会社モリタ] TEL: 084-966-3035

[施工者] 同上

[企画立案者] 同上



西道路に面する開口を最小限とすることで、西日を遮蔽しつつ歩行者からの視線を遮る計画とした。



## ◆創意工夫点 (森田 健吾さん)

一般的な住宅街に位置する2世帯住宅。

造園業の知識と経験を活かし、緑の配植を軸に建物配置や窓配置を検討することで、意匠と性能と庭とをバランスよく融合させながらロケーションに頼らず自然豊かな住環境となるよう計画した。

特に現場で廃材となった木材の木屑や地域の林道清掃ボランティアで得た落葉や枯れ枝を基に土中環境を整えることで住宅の性能にパッシブなデザインを加え、環境負荷の軽減、エネルギー負荷の軽減、自然環境保全に配慮した。



限られたスペースの中にも主庭～玄関～リビング～側庭と配置とすることでより広がりのある空間とした。

←写真奥から主庭、玄関、リビングが続き、写真後方の側庭に続く。



←側庭はリビングから縁側、デッキ、庭へとレベルを段々と下げることで室内から下草や石の表情も楽しめる。

屋外でありながらプライバシーが確保された家族団らんの空間である。



←建築時に出た木の端材を木屑にし土壌改良材として再利用することで廃棄物による環境負荷の軽減を図った。

枯れ葉や枯れ枝、木屑を用いて土中の環境を整え調湿効果を図ることでパッシブなデザインを計画した。→



#### ◆建築主と設計・施工者のやり取り

[建築主さん]：限られたスペースに5人で暮らすことと、来客が多いので大人数が集まれる空間を作ってもらえると嬉しいです！

森田さん：プライベートゾーン(寝室等)を最小限にし、リビング、側庭のデッキ、広い玄関ホールを1つの空間につなげて使えるようにしました。玄関ホールはリビングと段差無しでつなげ、ソファも配置しているので居室としても利用できます。

[建築主さん]：カーテンをあまり閉めたくないのですが、そんな住み方は可能でしょうか？

森田さん：建物を敷地に対して少し回転させて配置し、そこにできる空間に植栽を配置する計画にすると周囲からの視線を遮ることができます。

[建築主さん]：植物は好きだけど、植栽の手入れが不安です。

森田さん：森と同じような土壌や配植とすることで樹木の成長速度を抑え、水分は土中で補い合うように庭を造るため、手入れが楽な庭になっています。

[建築主さん]：夏の冷房費が心配です。

森田さん：太陽光パネルでエアコンの使用電力を賄い、全熱交換換気システムでエアコンの負荷を減らしましょう。また、土中環境を整えて地面からの冷気で建物の温度を下げることで、さらに電力消費を抑えることができます。

[建築主さん]：将来は両親に優しい家になりたいのですが、今できることはありますか。

森田さん：玄関の内外にそれぞれスロープを設置できるスペースを確保しています。また、寝室から水回りまでの家事動線が一直線で完結するように部屋を配置しています。

選評 審査委員長 栗崎 真一郎

敷地は田んぼの広がる風景から徐々に住宅地へと変わる場所にある。整然と区画割りされた土地に並ぶ建物が画一的になりがちな敷地に対して、豊かな街区を形成していることが最初の印象である。建物が区画に角度をつけて配置されることで、街並みに変化をもたらしている。さらにそこで生じる狭間が植栽・庇・塀・舗装により、独自の魅力ある外部空間となっている。この空間は、土間を通じて玄関やリビング、縁側へと連続し、集いの場をつくり出す。知事賞に相応しい作品である。

選評 審査委員 武田 賢治

福山市郊外に建つこの家は、区画分譲された四角い敷地に建設されているが、この敷地に対し建物を少し回転させて配置することにより、変化に富み多様に利用できる外部住空間を生み出している。建物規模はコンパクトに抑えられているが、この外部空間との繋がりの中で、潤いのある豊かな住空間を提案され、分譲地でありながら自然豊かな生活が期待される。限られた条件の中での住まい方を提案されており、この賞にふさわしい作品である。